

みのわ未来委員会（第2回）会議要録

日 時：平成27年5月21日13時～15時10分

会 場：箕輪町役場 3階 講堂

参 加 者：みのわ未来委員会委員（欠席者無し） 副町長・事務局（企画振興課）

傍聴人数：3人

報道機関：みのわ新聞

1. 開会

2. 会長挨拶

今回から具体的な内容の検討に入る。4次の検証、評価から今後10年間、どんな設計をしていくかを議論していく。

また、今月末から専門部会にて議論を開始する。

3. 議事

※事務局より前回の議事内容を報告。第1回議事録を公表することを承諾。

(1) 第4次振興計画の検証について

※資料をもとに事務局より説明。

柴委員)

○空き家の件について、思っている以上に若い人は空き家があることを知らない。新築が増えていくが、人口に対して家が多すぎると思う。酪農家は牧草地を維持し、緑の景観のづくりに寄与しているが、今後10年で後継者がいなくなり、維持するのが難しくなる。起業する人を増やす意味でも、箕輪町に若者が魅力を感じられる部分が少ないことについて、皆で話し合わなければいけない。

高田委員)

○少子高齢化は今までにどこにも例がない未知の世界。周りを見ながら学んでいくことも大切だが、他と比較するのではなく箕輪町にあるものを自覚し、魅力を発見して伝えていくしかない。空き家もそうだが「あるものをつかう」ということ。家、土地、人、何がいいのかという事について常会も含めて考えるべき。人口の見込みを町の皆さんに伝え、議論していくようにしてはどうか。

辻委員)

○空き家はたくさんあるのに、なぜ貸さないのか。それぞれ理由はあると思うが、アパート程度の家賃で借りられたら、子育てのことを考えると引き合いがあると思う。

小島委員)

○空き家は、数はあるものの住める状態にするにはリフォーム代が高く、安く貸し出すのは難しい。また、年配者は、家や土地に対する思い入れが非常に強く、容易に手放さない。一方、その次の世代は、今後の管理に困って手放したいと思っているなど、世代間での意識の差がある。考え方の違いをどうするかが、空き家についての課題になると思う。

唐澤委員)

○2040年の人口について創生会議の試案で検討したところ、20～30台の女性が35%減る見込み。各部会でしっかりと、人口問題をどうするか考え、町にあるものでできることを考えていかないといけない。町の求人率、非常に低いとその推移や、学校を卒業してどこへ行くかなど、身近なデータを用意してほしい。

小池委員)

○前回の委員会で町長が25,000人を維持したいと言ったが、部会に分かれて議論する上で、部会に具体的な目標人口を掲げた方が良いのではないか。また、他町村では空き家情報をインターネットで公開している。相続税の基礎控除も下がってきて、今後物納の話も増えてくる中、手放すことを考えている方も増える。

浦野会長)

○テーマごとの議論に入っていく前に、総人口をどこに定めるかということ考えるのも大切だと思う。前回計画では3万人であったが、第5次振興計画策定にあたり、共通認識として人口何人という考えはあるのか。

→合計特殊出生率の見込みについて考えている。シミュレーションをして今後、案を示していきたい。

山本委員)

○若い同世代の転入者を増やす施策をした場合、箕輪町が増えればその分他地域の人口が減るということで、詰まるところ若い人の取り合いになってしまうだけだといえる。そういった観点から「出生率を増やす」、「転出を防ぐ」ということがキーワードになると思うが、部会に分かれてそれぞれ議論する上で、方向性がぶれないよう確認したい。

和田委員)

○人口増加と出生率について、出生率を増やせばすぐ人口が増えるものではない。30年、40年、一世代、二世世代程度の時間がかかるものであって、10年、15年後の人口を増やすという施策としては、社会増を目指す方がやり易い。

山本委員)

○社会増を目指すのであれば、日本全体という広い目を見た時には、人口は増えないということになる。長い目で見て出生率を上げる方が良いのではないかな。

小池委員)

○自治体ごとの人口によって、地方自治も格差が出てくる。ある程度確保すれば財政が回るし、やらなければ、回らない。言葉を変えれば「取り合い」と言われてしまうかもしれないが、必要な事ではないか。もう少し荒療治をした方が良いと思う。

(2) 今後10年間の人口ビジョンについて

※資料をもとに事務局から説明。

(3) 共通課題の方向性について

※資料をもとに事務局から説明。

(4) 第5次振興計画の構成について(資料4)

※資料をもとに事務局から説明。

有賀副会長)

○10年間の計画だが、それより大きなビジョンがあるのか、それがあればそれに基づいて考えたいが。

→振興計画は町の最上位の計画であり、これを基に個々の計画を作るということ。

唐澤委員)

○第5次振興計画、人口ビジョン、総合戦略との関係は。私たちは第5次振興計画の策定についてのみ議論すれば良いかな。

→全て相関するものであり、一緒に策定していく。将来予測にも人口ビジョンが入ってくる。

高田委員)

- 議論をする上での何か制約はあるのか。つまり「これには則って」、「この範囲で議論しましょう」と言うものがあるのか。大きな町の方針、国の方針があって、そこから逸脱しない計画を作るのか。
- 制約は特にはない。今後、財政シミュレーションが示され、財政上の制限などは出てくるだろうが、それは、今後示される事業見直しにより、役場の中で調整していく。
- 補足。戦略、振興計画、人口ビジョンの関連性は分かりにくいと思う。制約は特になく、当面は第5次振興計画について検討していただきたい。次回以降分かりやすい資料を用意する。

有賀副会長)

- 第4次振興計画と違い、第5次振興計画では計画期間が5年から10年になっているが、その理由は。
- 5年間という単位で施策を考えると、社会情勢等変化が激しく難しい。毎年評価して回していく仕組みとしたい。よって、第5次振興計画は、数値目標と事業評価により毎年度の見直し、その基となる基本計画は10年間の計画期間でお願いしたい。

有賀副会長)

- 各部会でやりたい事業を考えると、3年、5年といった単位で作り、計画のスパンに相当の幅があっても良いか。
- 計画は1年毎の積み上げで考えており、最終的には10年という計画期間がある。専門部会の議論が始まるが、その点については、事務局が部会に入り意思統一を図っていききたい。

柴委員)

- みんなが納得するビジョンを作っていかななくてはならない。そのためには中心になる人が必要なので、みのわ未来委員会には、町長が毎回居た方が良いのではないかと思う。

浦野会長)

- 事務局で検討をお願いしたい。

(5) 専門部会の指定について(資料5)

※資料をもとに事務局から説明。

本会委員が所属する専門部会の指定(案)について承認。

第1回専門部会(初回全体会)は5月29日(金)16時~開催する。

専門部会指定の承認後、各部会の課題、論点などについてここで議論していただきたい。

浦野会長)

○前回馬場委員からも助言あったように、部会ごとの議論にならないように、部会の枠を超えた意見の交換をお願いしたい。

4. その他

(1) 開催日時について

※意向調査の結果を踏まえ、事務局から開催日程（案）の提案。

開催日：毎月第3木曜日 開催時間：午後1時～3時 という意見が最多のため、それで開催することとしたい。

6月18日、7月16日、8月は中間報告のため別途調整、9月17日、10月15日、11月19日、12月はまとめのため2回を予定する。

なお、以上の日程は、委員の都合を踏まえ、大勢の都合が悪い場合は、前の回の委員会で都度調整することとしたい。

(全体異議なし)

(2) 団体との意見交換について

※意向調査の結果を踏まえ、意見交換を行う団体（案）について提案。

意向調査の結果、箕輪町商工会が最多であったため、次回第3回に意見交換をしたい。第4回目の意見交換相手方はおって検討する。

意見交換会ではある程度テーマを決めて、意見交換したほうがスムーズであるため、テーマについて議論をお願いしたい。

浦野会長)

○今後、みらい未来委員会の議論をベースに各団体とコミュニケーションをしていくが、第5次振興計画の策定は町全体でコミュニケーションをとって議論していくことが大切だと思う。密室で何しているんだろう？と住民が思うのではなく、団体との意見交換をきっかけに町全体が盛り上がっていくことが大切。

小池委員)

○意見交換は重要だが、もう少しこの本会で議論を重ね、本会としての考え方を示せるようにするにはいけないのではないかな。もう少し内々で論点を詰めてからの方が良いのでは。ただ、漠然と総花的に話をしても、良い方向性が見い出せない。

浦野会長)

○そういうことでないと議論が深まらないという意見で良いか。意見を踏まえて進めたい。

馬場委員)

○箕輪の良さ、あるものを生かすというのは大事な視点で、「ないものねだり」や「課題の裏返し」を求めていっても中々大変だと思う。もう一回足元を見て、「箕輪の良さは何だ」と言うのを、我々が分かっていないと将来像が描けないと思う。そういった議論が、これから部会の中で論点になって、箕輪のここを伸ばす、というビジョンを描いて町民の皆さんがそれに向かっていけたらと思う。

○また、広報みのわの実が読まれることが大切。紙ベースのものに加え、町民の皆さんに発信できるメディアも検討していく時期だと思った。

和田委員)

○前回、箕輪町として、どういう強みがあって、どうやってきたかという検証をお願いした。今回の資料に示された「暮らしやすさ」の指標を示したものがあるが、これが箕輪町の強さのひとつかと思う。資料には現状は書いてあるが、これに対して、町としてどういう施策をしてきて、どういう評価だったかを検証し、良いところは伸ばし、悪いところは改めて欲しい。

○また、今日の議論の中で「人口減少を悪く捉えるのかどうか」という所についてもっと議論をして欲しい。人口が減っていくことについて、「住民の皆さんはどのように捉え」、「どうしたいのか」、と言うことが、これから第5次振興計画の基本理念として出てくるのではないかと思う。つまり、人口についての皆さんの受け止め方が大事になってくる。「人口減少に抗って、今までどおり増やしていくのか」、「人口減少を受け入れて、なお住み良いまちづくりをしていくのか」そのそれぞれ違うベクトルについて大いに議論してもらいたい。それを議論して決めていくのが皆さんだと思う。

吉村委員)

○金融機関として企業に提案する際、事前に SWOT を議論しないと、提案自体が間違ってしまう。強み、弱みのほかに、脅威、好機についてもきちんと把握して議論しなくてはいけないと思った。

○また、八十二銀行の箕輪支店には箕輪出身者はいないが、支店に来るまで箕輪町を知らなかったという人がほとんど。町の魅力発信の仕方を考えることが必要だと感じた。

原委員)

○現状の検証の部分で、15歳～49歳の女性の製造業従事者が49.8%減少したと

示されている。ひと口に製造業とあるが、その中身も重要。機械系は元々女性が少ない。食品系、組み立て系などが少なくなっているのかもしれない。企業誘致を考える中でも、分野を考えて議論することが必要になってくると思う。

4. 閉会